

**2012年 7月改訂 (第3版)
*2005年 9月改訂

調剤用剤

日本薬局方

塩化ナトリウム

(食塩)

Sodium Chloride

塩化ナトリウム「東海」

日本標準商品分類番号	
87719	
承認番号	(61AM)2178
薬価収載	1985年7月
販売開始	1985年8月
再評価結果	1977年10月

貯法：気密容器・室温保存
使用期限：3年(表示の使用期限を参照すること)

【組成・性状】

1. 組成

本品は日本薬局方塩化ナトリウムの原末である。

2. 性状

本品は無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。

【効能・効果】

〈経口〉

食塩喪失時の補給

〈注射〉

[0.4%注射液] 注射剤の溶解希釈剤

[生理食塩液] 細胞外液欠乏時、ナトリウム欠乏時、クロール欠乏時、注射剤の溶解希釈剤

[10%注射液] ナトリウム欠乏時の電解質補給

[1mol/L、2.5mol/L注射液] 電解質補液の電解質補正

〈外用〉

皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布、含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進

〈その他〉

医療用器具の洗浄

【用法・用量】

〈経口〉

塩化ナトリウムとして、通常、成人1回1～2gをそのまま、または水に溶かして経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈注射〉

[0.4%注射液]

適量を取り注射用医薬品の希釈、溶解に用いる。

[生理食塩液]

(1) 通常20～1,000mLを皮下、静脈内注射または点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

(2) 適量を取り注射用医薬品の希釈、溶解に用いる。

[10%注射液]

電解質補給の目的で、輸液剤などに添加して必要量を静脈内注射または点滴静注する。

[1mol/L、2.5mol/L注射液]

電解質補液の電解質の補正として体内の水分、電解質の不足に応じて電解質補液に添加して用いる。

〈外用〉

(1) 通常、等張液として皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布に用いる。

(2) 通常、等張液として含嗽・噴霧吸入に用いる。

〈その他〉

生理食塩液として医療用器具の洗浄に用いる。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

〈経口〉

(1) 心臓、循環器系機能障害のある患者 [塩化ナトリウムを負荷することから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]

(2) 腎障害のある患者 [塩化ナトリウムの過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]

〈注射〉

[生理食塩液]

(1) 心臓、循環器系機能障害のある患者 [循環血流量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]

(2) 腎障害のある患者 [水分、塩化ナトリウムの過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]

[10%注射液、1mol/L、2.5mol/L注射液]

(1) 心臓、循環器系機能障害のある患者 [塩化ナトリウムを負荷することから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]

(2) 腎障害のある患者 [塩化ナトリウムの過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

その他の副作用

〈経口〉

大量投与：悪心・嘔吐等の消化器症状、高ナトリウム血症、うっ血性心不全、浮腫があらわれることがある。

〈注射〉

[生理食塩液]

大量・急速投与：大量を急速投与すると、血清電解質異常、うっ血性心不全、浮腫、アシドーシスを起こすことがある。

[10%注射液、1mol/L、2.5mol/L注射液]

大量投与：高ナトリウム血症、うっ血性心不全、浮腫があらわれることがある。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3. 高齢者への投与

〈経口〉

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、減量するなど注意すること。

〈注射〉

【生理食塩液】 [10%注射液、1mol/L、2.5mol/L注射液]

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

〈注射〉

【生理食塩液】

(1) 投与前

- 1) 投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具消毒)。
- 2) 寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
- 3) 開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。

(2) 投与时

ゆっくり静脈内に投与すること。

【10%注射液、1mol/L、2.5mol/L注射液】

(1) 調製方法

本剤は希釈して使用すること。

(2) 投与前

- 1) 投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具消毒)。
- 2) 寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
- 3) 開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。

【薬効薬理】

生体内に最も普遍的に存在する無機物質で、血清の無機成分の90%以上を占め、主として細胞外液にあって体液浸透圧維持の主体をなすと共に生体水分分布の重要因子となっている。本薬の0.9%水溶液は温血動物体液と等張で生理食塩液といい、注射しても溶血を起こさず、また局所組織の脱水、刺激などを招かない。ナトリウムイオンには特有のイオン作用はほとんどないが、ナトリウムイオンはカリウムイオンと共に神経の興奮の維持と伝達に必要である。塩化ナトリウムの欠乏はアルカローシス、けいれん、ときに筋肉の興奮を伴う嘔吐、異常発汗に基づく熱けいれんなどの原因となり、またアジソン病に似た脱力症状を示すことがある。

**【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：塩化ナトリウム (Sodium Chloride)

分子式：NaCl

分子量：58.44

含量：本品は定量するとき、換算した乾燥物に対し塩化ナトリウム(NaCl)99.0~100.5%を含む。

性状：本品は無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。水に溶けやすく、エタノール(99.5)にほとんど溶けない。

【包装】 500g

**【主要文献】

日本薬局方解説書(廣川書店)

【文献請求先】

〒454-0954

名古屋市中川区江松一丁目105

東海製薬株式会社 情報室

TEL 052-302-8501

* 製造販売元 **東海製薬株式会社**

名古屋市中川区江松一丁目105